○あれちまつよひぐさ（新和名）（原　寛）

今迄ハめまつよひぐさ（*Oenothera biennis* L.）ト混同サレテキタラシイガ、花ガ小サク、花瓣ハ長サ 1.2 cm 内外、葉モ狹イモノガ近年處々ニ歸化シテ居ル。學名ハ **Oenothera muricata** L.（1767）デヨイラシイ。私ガ輕井澤ノ「フローラ」VIII, p. 169, no. 417（1934）＝ *Oenothera* sp. トシテオイタモノモコレデアル。北米ノ原産トサレテ居ルガ、歐洲ニモ古クカラ歸化シテ居リ、我國デモ段々擴ガツテユク樣ニ思ハレル。*O. parviflora* L.（1759）ナルモノガコレト同一種中ノモノデアラウトノ說モアルガ未ダ明確デナイ。眞ノ *O. biennis* L. ハコレヨリ遙カニ花ガ大キク、花瓣ハ長サ 2 cm 許アル。

○大和本草ノマソフヤニ就テ（津山　尚）

貝原益軒先生ノ大和本草卷之十二ノ雜木類中ニマソフヤナル一項ガアル。其處ニハ「蠻語也異邦ヨリ來レル木皮ナリ。打撲傷損腫痛少許鎊硏浸水以汁塗患處甚驗アリ」トアル。コレハ何物デアルカ不明デアルラシイガ、小生ハ蘭印デ極古イ時代カラ商品トナツテキル Massoi bark 卽チ Blume 氏時代ノ *Massoia* デハナイカト思フ。Ridley（Spices, 1912）氏ニヨレバ、Massoi bark ハニユーギニアノ森林中ノ大木ノ皮デアツテ、若イ木ヤ、小枝ノ皮ハユーゲノール成分ガ少ク香料ニナラナイ由デアル。Blume, Beccari ノ諸氏モ遂ニ完全ナ標本ヲ得ルコトガ出來ナカツタ由デ、ソノ木ノ本體ハ今迄漠然トシテ謎ノ儘殘サレテキル譯デアル。Ridley 氏ニヨレバ昭南島デハ meswi bark ト言ハレテ居ル由デアル。金平博士ノ近著「ニユーギニア探檢」ニヨルト（110 頁、278 頁）、同氏等モコレヲ現地デ確メント努力サレタコトガ判ル。氏ニヨルトコノモノハ通常 *Cinnamomum massoia* Schewe ト言ハレテキルガ、他ニ *Litsea, Massoia, Sassafras, Cryptocarya, Endiandra* 等ト鑑定サレタコトモアル由デアル。何レニシテモ完全ナ標本ノ入手ガ第一ノ要件デ、ジャバノボホール植物園（ボイテンゾルフ）ニモ花ヤ果實ノアル完全ナ標本ハナイ由デアル。小生思フニコノモノノ鑑定ガ分レテキルノハ或ハ種々ノ樹皮ヲ含ンデキルタメカモ知レナイ。何レニシテモ益軒先生ノ時代（寶永五年、西歷 1708）ニ既ニ日本ニ舶載サレテキタラシイコトハ興味ガアル。尤モ先生ヨリ以前ノ記載ハ當然期待サレル所デアルガ、今ハ調ベル暇ガナイ。

○珍ラシイ斑紋ノアルかき（太田繁則）

長野縣埴科郡屋代町ニ珍ラシイかきガアル。柿樹ハ實生ノ幼木デ根元幹圍 23 cm、目通幹圍 13 cm、枝下 2 m 枝張 2.2 m、樹高 3.5 m。5 年程前カラ開花結實シテキルガイツモ果面ニ奇異ナ斑紋ヲアラハスノデ珍ラシイ。特ニ 1938 年ニハ一樹全部ノ果實ガ極メテ明瞭ナ濃イ斑紋ヲ見事ニアラハシタ。ドウシタノカ 1939 年ニハ斑紋ガウスラギ或ハ全然ナクナツタノモ中ニハ見エタ。斑紋ハ年ニ依ツテ濃淡アルモノノ如ク、今後如何ナル濃サニアラハレルカハ甚ダ興味ガアル。斑紋ノ濃淡ニハ年ニ依リ相違ガアツテモ、斑紋ノ